

ビックリしたこと

新しく入会されたBさんは、ダブルストックを使っている。昨今ダブルストックを使っている人は多く、そのことはビックリではない。Bさんのストックは、石突きにプロテクターがはめられていない。そのこともビックリではない。少数派ではあるがプロテクターをはめずにストックを携行している方はいる。ニュージーランドやカナディアンロッキーでは、プロテクターをはめている方が少数派だ。ぼくの周辺にいらっしゃる人は、ほとんどの人がストックにプロテクターがはめられている。そのことに気がついたBさんから、驚愕すべき話を聞かされたのだ。

山に登り始めた頃、初めて泊まった山小屋のオヤジさんが、言ったんです。「岩崎が『石突きにプロテクターをはめるな』って言うてるよ。石突きを地面に突き刺せば、地面が耕されて翌年は高山植物もきれいに咲くんだ、ってね」あたしはそうなのかと思って、石突きにプロテクターをはめていないんです。いやあ、ビックリした。

NHK教育テレビ番組「中高年のための登山学」の中で、ストックを使うと脚筋力の負担を軽くするという話しをした。今から20年前、1995年当時は、ストックを使うとなんとなく年寄りじみて見えるためか、ストックが積極的には使われていなかった。「ストックを使ってもいいんですか」という質問がよくあった。「脚筋力が弱いと感じたり、バランスが悪いと思う方はストックを使ったらいいですよ」と、番組の中でアドバイスしたのだ。後で聞いた話しだが、その場面が放送された翌日、登山用具専門店でストックが売り切れたとか。

ストックの使い方にも言及している。ストックは、①他人に優しく、②自分に優しく、③自然に優しく使って下さい、と。ストックを手にして歩いているとき、前に突きだし後ろに振り上げる人がいるが、前後の人が恐怖を感じているということを知って頂きたい。背中の小さなザックからストックが飛び出しているのに、そのザックを振り回すように背負ったり降ろしたりする。ストックの握りが他のメンバーにパンチくらわすのを見たことがある。そんな他人に優しくない使い方はやめて頂きたい。岩場のハンゴやクサリをストックを手首にぶら下げて登っているのを何度も目撃しているが、危なっかしくて見てられない。岩場にさしかかったら、ストックをきちんと始末して、自分に優しく行動して頂きたい。この始末の方法は言葉での解説が難しい。岩崎の登山教室に一度参加して「始末の方法」を勉強しにきて欲しい。

3番目の自然に優しくが、今回のテーマ。ストックの石突きにプロテクターをはめること、である。プロテクターをはめたからといって、ダメージがないわけではない。岩場、ガレ場ならいざ知らず、雨上がりの泥道などではズボズボ穴を開けていく。そんなことにも気遣いながら、自然に優しくストックを使って頂きたい。